

佐倉フィルハーモニー管弦楽団

# 第62回定期演奏会

2015年6月28日(日) 14:00 開演

会場：佐倉市民音楽ホール(京成臼井駅南口徒歩4分)

指揮：碓山 隆一郎

曲目：シューマン／マンフレッド序曲

ポロディン／交響詩「中央アジアの草原にて」

シューベルト／交響曲第8(9)番

ハ長調 D944「グレート」



## 碓山 隆一郎 Ryuichirou IKARIYAMA (指揮)

1987年鹿児島県・喜界島生まれ。幼少よりピアノと電子オルガンを学ぶ。  
私立浜松学芸高等学校電子音楽科を卒業後、2006年東京音楽大学音楽学部音楽学科作曲指揮専攻(指揮)に入学。  
2012年同大学大学院(指揮研究領域)を修了。指揮を広上淳一、汐澤安彦、関谷弘志、田代俊文、三河正典、ピアノ及びスコアリーディングを野田清隆、久田典子、チェロを三森未来子の各氏に師事。また東京音楽大学在学中に、尾高忠明、高関健、下野竜也、ボリス・ベルキン(ヴァイオリニスト)、ヨルマ・パヌラ、ピエタリ・インキネン各氏の特別レッスンを受講。  
2009～2010年に井上道義による指揮者講習会に参加。  
2014年夏 Branimir Slokar Academy(スロヴェニア)のマスタークラスにおいて、クラウス・アルパのレッスンを受講し、コンサートでは Ljubljana International Orchestra を指揮した。  
現在、オペラ公演や各地のオーケストラへ客演している。



sakura  
philharmonic  
orchestra

主催：佐倉市民音楽ホール・佐倉フィルハーモニー管弦楽団  
[http://www.geocities.jp/sakura\\_ph\\_or/](http://www.geocities.jp/sakura_ph_or/)

後援：佐倉フィル友の会



### シューマン／マンフレッド序曲(初演 1852 年)

シューマンは多くの歌曲やピアノ曲を作曲したことで知られていますが、管弦楽に於いても充実した作品をあらわしています。その中でもこの「マンフレッド序曲」は単独で演奏されることも多い名曲です。「マンフレッド」とはイギリスロマン派の詩人バイロンによる長大な劇詩です。スイスのアルプス山城に住む若い当主マンフレッドが、かつて恋ゆえに人妻を死に追いやった暗い罪業感に悩み、アルプスの山中をさまよいつづけた末、ついにその恋人の霊と再会し許しを乞うと共に自らも息絶える、という物語です。

シューマンは、この作品に付随音楽をつけましたが、本日演奏する序曲が特に有名です。冒頭の激しい和音、緩やかな序奏に続き、次第に高揚しながら3連符とシンコペーションで特徴的な第1テーマが提示されます。続いて第2テーマが始まり、流れるような旋律と、熱情的に上行する旋律が奏されます。展開部・再現部を経て、最後は序奏の雰囲気に戻り、静かな死を暗示するようにひっそりと曲が閉じられます。シューマンは自身の苦悩する人生を厭世的なマンフレッドの生き方と重ね合わせて、ある種の共感をもって作曲に臨んだと言われています。

西中久美子(コントラバス)

### ボロディン／交響詩「中央アジアの草原にて」(初演 1880 年)

この曲はロシア皇帝アレクサンドル 2 世の即位 25 周年を記念した祝典のために書かれました。ボロディンはこの曲を「荒涼とした中央アジアの草原の静けさの中から平和なロシアの歌が聴こえてくる。馬やラクダの足音に交じって、東洋のメランコリックな旋律も聴こえてくる。アジアの隊商の群れがロシア兵に護衛されながら平和な長い旅を続ける。ロシア人とアジア人の歌が交じり合って共通のハーモニーを作り、やがて静かな草原の中に消えていく。」と説明しています。ボロディンは本業が化学者で、30 歳まで正式な音楽教育を受けなかったとも言われていますが、類まれな美しい作品を作る作曲家でした。この曲もそれぞれのテーマが郷愁を誘う美しいメロディーでできています。

全体的にロシアの旋律がリードしているのは、この曲の作曲意図が「ロシアの東方への版図拡大を祝賀すること」だったからと言われていますが、ボロディンが表現しているのは、それぞれの民族が持つ音楽の素晴らしさとそれらの融合美だったのかもしれない。

西中久美子(コントラバス)

### シューベルト／交響曲第 8 (9) 番 ハ長調 D944(「グレート」) (初演 1839 年)

シューマンが「天国的な長さ」と評したことで有名な、シューベルト作曲の最大の交響曲です。シューベルトは古典派とロマン派の境目あたりの作曲家ですが、この曲はその両方の魅力を併せ持つ名曲です。尊敬するベートーヴェンの交響曲に負けないものを作ろうとして作曲されたと言われており、メロディメーカーとしてのシューベルトの魅力を持ちながらも、線の太さも感じさせる曲となっています。1839 年にシューマンの勧めで、その友人メンデルスゾーンが初演を行いました。その後しばらくの間は「長すぎる」「難しい」という理由でオーケストラから敬遠されていたといわれます。この交響曲は、19 世紀には第 7 番と呼ばれていましたが、その後、「未成交響曲」が発見されたため、かなり最近までは第 9 番と呼ばれていました。しかし、さらに研究が進められた結果、第 8 番という番号が付けられることになりました。今後は徐々に第 8 番で定着していくと思われていますが、「第 9 番「ザ・グレート」」という印象がまだまだ強いので、最近では第 8(9) 番という表記が一般的なようです。

西中久美子(コントラバス)





## Sakura Philharmonic Orchestra

本日のメンバー

Concert Mistress : 矢野 歩

**1st Violin**

相川 みどり  
 岩淵 善彦  
 清水 俊子  
 ♪ 庄司 睦美  
 浅田 桂子  
 久間 好高  
 久間 知恵子  
 高橋 雅英  
 武藤 貴子

**2nd Violin**

安齊 利男  
 天本 幸江  
 佐藤 邦子  
 ♪ 二宮 伸雄  
 畑 保子  
 宮内 千絵  
 早川 貴子  
 若林 佳水

**Viola**

大塚 佳子  
 大辻 ひろの  
 櫻井 潤子  
 高橋 恭子  
 高橋 奨  
 不破 眞

**Cello**

菅野 修平  
 ♪ 清水 裕幸  
 松浦 晴彦  
 峰尾 龍一  
 上田 哲也  
 通山 光正  
 藤塚 紗也香

**ContraBass**

♪ 西中 久美子  
 八田 英司  
 赤岡 秀紀  
 五百木 進  
 西中 啓二

**Flute**

♪ 阿部 恵美  
 三村 さゆり  
 山田 綾乃

**Oboe & English horn**

♪ 辻野 豊博  
 出口 薫太郎  
 松本 賢一郎

**Clarinet**

會田 智恵子  
 石鍋 豊和  
 原口 豊隆  
 ♪ 福士 未樹

**Fagotto**

♪ 大平 麻海子  
 山形 真生

**Horn**

岡 裕昭  
 川田 陽子  
 小林 昌樹  
 ♪ 阪本 薫子  
 柴田 かおる

**Trumpet**

氏家 豊  
 ♪ 大木 基之  
 勝股 宗也

**Trombone**

阿部 博  
 柴田 孝一  
 ♪ 村上 茂夫

**Percussion**

♪ 新井田 久美子

♪ : パートリーダー

**第63回 定期演奏会**

開催日 : 2015年11月29日(日) 14時開演  
 場所 : 佐倉市民音楽ホール  
 指揮 : 鈴木恵里奈  
 曲目 : ドヴォルザーク / 交響曲第9番「新世界から」  
 保科 洋 / 「風紋」  
 ビゼー / アルルの女第2組曲

**団員募集**

【募集楽器】 弦楽器:全パート  
 管楽器: Fg.(2名)  
 打楽器:若干名  
 【練習日】 毎週日曜日 18:00~21:00  
 【練習会場】 佐倉市民音楽ホール練習室 他  
 【問い合わせ】 [http://www.geocities.jp/sakura\\_ph\\_or/](http://www.geocities.jp/sakura_ph_or/)